

【サーキット遊び】 3・4・5歳児

ねらい：いろいろな運動を通して楽しく体を動かしながら、身のこなし方を知り、体力作りをする
難しいことや苦手なことにも挑戦し、できた時の達成感を味わう

子どもの思い

その他、吹き出しは、
子どものことば



【内容】

- 平均台
- リズムジャンプ
- 縄跳び (年中・年長)
- キックボードかストライダー
- 鉄棒・的当て・かけっこ



次は落ちないぞー

ゆっくり渡っても
何で落ちるんだろう？

もっと、足あげて！
お手本見せたる
しっかり、見てて



もう少し

なぜ運動遊びが充実したのか？
サーキットの内容を学年ごとに話し合い成長段階に合わせた内容にすることで普段の遊びの中でも挑戦することができた。子どもたちなりに工夫をして展開させることで主体的に取り組める子が増えてきた。

遊びの中での豊かな学びや育ち
自分一人では挑戦しにくいことも、友だちと一緒に取り組むことで興味を持ち、難しいことにも挑戦する姿があった。友だちに対して思いやりの気持ちやできないと悔しいなど、心の成長も見られた。何度も繰り返し挑戦していく中で、できた喜びや達成感を味わい、次の目標を見つける子も出てきた。

環境構成・気をつけたこと
競争心が出てきた子たちが、何でも競争したり、苦手な運動を避けたりしてしまう子がいたので、一緒に挑戦できる環境づくりを心掛けた。また、子どもたちが楽しみながら挑戦できるように学年に合わせた内容にし、興味を持って、積極的に挑戦できるように工夫した。



早く～おいで

♪音楽に合わせて
いろいろな
跳び方を
します

何で、そんな
早い？



頭・肩・
ウ・トン・トン



最高記録！

友だちに負け
たくない・・・

振り返り
サーキットを通して、体を動かすことの楽しさを知り、苦手なことにも「挑戦したいと思う気持ち」が芽生えてきた。友だちとのかかわりが自然と増え、友だちが不安そうにしていると、声を掛け一緒に取り組み、気持ちに寄り添う姿も見られるようになってきた。すぐに結果が出なくても、保育者や友だちが認めることで自ら苦手なことに挑戦でき、それが自信や達成感にも繋がってきている。

【跳んでみよう】3・4・5歳児

ねらい：十分に身体を動かしながら遊ぶ楽しさを味わう

なぜ運動遊びが充実したのか？

- ・伸び伸びと身体を動かし心地よくなった
- ・友だちと一緒に遊んでいるうちに楽しくなった
- ・試行錯誤しながら繰り返すうちに考えや工夫が生まれた
- ・自分の力でやってみたい気持ちが高まった



まっすぐにしたら
跳べるかな…

膝を曲げて…

足を揃えて…

こうするねんで！ぴょん！

息を合わせて
せーのーそれっ！！

1回、2回、3回…

環境構成・気をつけたこと

- ・目に見えて、やってみたくなる環境をつくる
(子どもの興味に合わせて縄跳び・フープ・巧技台など)
- ・何度も繰り返し挑戦できるような機会をつくる
- ・工夫していること、意識していることなどを
友だちと言葉で伝え合う場を設ける

遊びの中での豊かな学びや育ち

- ・友だちの動き見てタイミングをつかむ
- ・跳べた回数を数え合い数量への関心を持つ
- ・友だちに声を掛けたり自分なりの工夫した点や
考えたことを伝え合ったりする

段々と早くなってきた！
楽しいな～

見ててな～

うまく
跳べるかな？

グー、パー
グー、パー

振り返り

環境を整えることで、身体を十分に動かしながら楽しめた。何度も繰り返すことで子ども自身に気付きが生まれ「もう一回やってみたい」「うまく跳べるようになりたい」と意欲が高まっていった。また、友だちの跳び方を真似てみたり、タイミングやコツを言葉で伝え合ったりすることで、イメージを共有し、友だちと一緒に楽しみながら自ら進んで取り組んだ。諦めずに挑戦したり、やり遂げたりしたことが自信となり、次への様々な活動にも意欲的に取り組むようになった。

【体操教室楽しいよ！】～運動が苦手な子への支援～ 4歳児

ねらい:いろいろな運動遊びに興味を持ち、身体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう



鉄棒ちょっと
怖いなあ

やったあ！
できたね

できた！
怖くなかった

遊びの中での豊かな学びや育ち

- ・向き合い、寄り添うことで信頼感が生まれ、次の段階へスムーズに進むことができる
- ・できるようになったことで喜びを感じ、自信が生まれる
- ・だんだん恐怖心が薄れ、運動遊びが楽しいと感じられるようになる
- ・跳び箱やボール遊びなど、他の運動遊びにも「やってみよう!」と前向きに取り組む



なぜ運動遊びが充実したのか？

- ・しっかりと向き合い、繰り返し前向きな言葉掛けをすることによって苦手意識や恐怖心を取り除くことができた
- ・少しずつできるようになったことが自信につながり、「もう一回やろう」という意欲がでてきた
- ・寄り添いながら一緒にやる中で、できたことを褒め、共に喜び、楽しさを伝えていった



うまく
できるかなあ

だいじょうぶ！
ぜったいできるよ

環境構成・気をつけたこと

- ・幼児の思いに寄り添う
- ・どのような言葉掛けが意欲を引き出せるのか見極める
- ・少しでもできたら、たくさん褒める
- ・取り組む姿勢や気持ちの変化を友だちにも伝え、認め合えるようにする
- ・戸外遊びの際にも、気軽に鉄棒に触れる機会をつくるようにする

振り返り

- ・初めて取り組むことに不安が先に立ち、体操教室にもなじめない幼児に対して、安心して参加できるよう、保育者が体操教室と一緒に参加したり、「大丈夫」「できるよ」「一緒に行こうね」などの言葉を掛けたりして、寄り添うことから始めた
- ・あきらめず繰り返しチャレンジするうちに、恐怖心が薄れていった
- ・何度も取り組み、達成感を味わい、自信につながった

【ドッジボールをしよう】5歳児

ねらい：○ボールをかわすスリルや相手を狙ってボールを当てることを楽しむ

○友だちと一緒にルールや作戦などを考えながら一緒に遊びを進める楽しさを味わう

なぜ運動遊びが充実したのか？

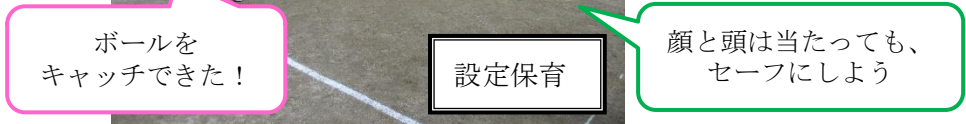
- ・自発活動や設定保育で繰り返し遊ぶ時間があつた
- ・ルールを自分たちで伝え合い共有した
- ・ボールを「遠くに投げる」「よける」「狙って当てる」「キャッチする」などそれぞれがおもしろく感じたり得意になったりするポイントがあつた



遊び中での豊かな学びや育ち

- ・ルールや気付きなど言葉で伝え合う
- ・できるようになった喜びや自信
- ・友だちへの思いやり
- ・友だちと協力して遊びを進める
- ・勝った喜び、負けた悔しさを友だちと共有する
- ・数や空間への関心(チームの人数、勝敗、コート大きさ、ボールを投げる距離)

・設定保育でも繰り返し取り組み、自発活動でのドッジボールも活発になった。



環境構成・気をつけたこと

- ・自発活動ですぐに遊びだせるように園庭にコートをかいておく
- ・設定保育では人数に応じたコートの大きさを考える
- ・ルールを共有する際はホワイトボードを使って幼児の話をもとめる
- ・投げ方、よけ方を工夫している友だちの様子を見合う機会をつくる
- ・ゲーム終了のタイミングはその日の幼児の状態に合わせて変える(5分間や最後の一人が当たるまでなど)
- ・細かなルールはその場で幼児と共に決めていく

振り返り

- ・幼児がドッジボールに興味を持ち始めたタイミングでクラス全体でも取り組んだことで、遊びが広がった。
- ・興味のなかった幼児もクラス活動で繰り返し取り組む中で、うまくボールをよけることができたり、投げたボールを当てることができたり、ボールをキャッチできたりしていた。成功体験をしていくことでおもしろさを感じ、意欲的に活動に取り組む姿につながった。
- ・遊びのルールを話し合う中で、友だちの思いを聞き、ルールの必要性を感じ、考えを伝え合う姿が見られた。